

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

学校名	鳥栖市立鳥栖小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・校内研究で取り組んでいる「つなぐタイム（考えを出し合う・意見交流を行う）」を教員が共通理解・共通実践することで、児童の学力向上につながってきている。今年度も、児童が目的をもって主体的に「つなぐタイム」に取り組むような手立てを考え、児童の学力向上をめざす。 ・学校運営協議会発足時から取り組んできたプロジェクトは順調に遂行することができている。今年度も、学校と保護者、そして地域がさらにつながり、「わ」となって取り組めるよう、積極的に地域の「人」や「もの」から学びを深めていくことで児童の郷土に対する思いや誇りを高める。 ・昨年度は、業務改善（成績2期制等）を進め、教職員の時間と心の余裕を生み出し、授業づくり等の「教師本来の業務」に専念できるような体制を整えてきた。今年度は、職員が、自宅に持ち帰って業務を遂行している時間を把握し、具体的な改善策を話し合い、働き方改革の改革を実施する予定である。		
2 学校教育目標	心豊かで、たくましく、自ら学ぶ “とすつ子”の育成 ～合言葉『わをつくらう』～ ◎やさしいつばい ○元気いっばい ○やる気いっばい ・相手の気持ちを考えて行動できる子 ・仲間と共に健康安全に気をつけ、体を鍛えることができる子 ・進んで学ぶことができる子 ・社会や地域に目を向け、多様性を認め、人や自然を大切にできる子 ・よいことを進んで行い、きまりやマナーを守ることができる子 ・仲間と話し合い、考えを認め合い、根気強く解決できる子		
3 本年度の重点目標	①児童が安心して安全に生活でき、学力向上を図る学校づくり ②開かれた学校づくりの推進（コミュニティースクール） ③教職員の資質向上の推進（授業力、生徒指導力） ④業務改善・働き方改革の推進		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○各学年において、「国語、算数の学習内容を理解することができる」児童を85％以上を目指す。 ○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した児童(生徒)90％以上を目指す。	・ドリルタイムなどを利用して基礎・基本の学習内容の定着をはかったり、児童の習熟度をこまめに確認したりするなどして、児童のつまずきに早めに気づき、授業に生かす。 ・昨年度から引き続き、学校独自の話し合い活動である「つなぐタイム」を全教科の授業で設定する。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳を通し、優しさに関するアンケートを実施し、「相手を思いやり、優しく接するよう心掛けることができた」児童を80％以上を目指す。	・保護者の方に道徳科の授業を学年部で公開する。(ふれあい道徳) ・とすつ子掲示板に定期的に取り組み、児童の心を豊かにしていく。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)についての組織的対応ができていると回答する職員が100％になることを目指す。	・毎月のにこにこアンケートで、いじめにつながるような言動に対して、ていねいに対応することで、児童が「学校が楽しい」と感じられるようにする。 ・いじめの対応についての研修・資料提供を年間に3回以上行う。 ・いじめ事案について学校全体で情報を共有する。
	●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80％以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80％以上	・教室掲示や朝の会・帰りの会などを使って、個々の児童のよさを積極的に紹介する。 ・学期ごとに目標を立て、ふりかえりを行う。その際に、児童の目標やがんばりを積極的に評価することで、夢や目標の実現に対する意欲付けをする。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60％以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒85％以上	①年間2回、全学年でクラスマッチを開催し、練習を通して運動時間を確保する。また、晴れている昼休みは、運動場で体を動かすことを推奨する。 ③家庭科をはじめとした教科等の学習や給食時間の指導を通し、「健康に良い食事」の仕方や内容を理解させる。また、学級担任と栄養教諭のTT授業で、その理解を深めさせる。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●月の時間外在校時間が45時間を超える職員の割合20％以下を目指す。 ○職員の持ち帰り業務時間0時間を目指す。	・職員の持ち帰り時間とその内容の把握を行い、持ち帰り時間を減らす。 ・成績2期制を有効に活用し、放課後等の業務を効率的に行うことで、昨年度より時間外在校時間を減らす。 ・曜日毎の施設時刻を設定し、教職員一人一人の意識を職場全体に繋げる。(金曜日は原則として定時退勤) ・事故等があった場合の報告・連絡・相談を徹底し、早めの解決を図ることで事後対応をできるだけ減らし、業務改善につなげる。
	○衛生・安全管理の改善・充実	○職場における事故0を目指す。	・定期的に職員室等の整理整頓と環境美化の時間を設定する。 ・ラインケア、セルフケアの両面から教職員のメンタルヘルス対策を行う。
●特別支援教育の充実	○個に応じた支援体制 ○研修会開催 ○関係機関との連携	○個別的教育支援計画及び指導計画の作成と学期毎の振り返り、改善等(100%) ○特別支援教育に関する研修(校内研修会年4回)	・個別的教育支援計画及び指導計画を作成し、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・支援が必要な児童については全教職員で共通理解を図るとともに、支援体制を整えて指導・支援を行う。計画的に校内研修会を開き、特別支援教育に関する理解と専門性を高める。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
	重点取組		具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80％以上 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80％以上	・保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開を全学級で年間1回以上行う。 ・保護者等に対する教科「日本語」に係る情報(学年便り、学級通信など)を年間3回以上全学級が行う。
○開かれた学校づくり	○学校運営協議会の取組の推進	○コミュニティースクールのよさを生かし、学校が地域やPTAと連携し、学習支援・行事体験・環境整備・地域安全の確保を行っていると感じた教員・保護者・学校運営協議会委員の回答率85％以上	・学校行事等の積極的な協力依頼(生活科・総合的な学習等の学習支援) ・地域見守り隊による登下校の安全確保 ・学習環境整備の支援 ・活動についての情報公開(コミュニティ便り、HP、メール配信等)
●…県共通 ★…市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育			
5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・		